

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-151247
(P2001-151247A)

(43)公開日 平成13年6月5日(2001.6.5)

(51)Int.Cl.⁷
B 6 5 D 33/00
77/30

識別記号

F I
B 6 5 D 33/00
77/30

テマコト^{*}(参考)
Z 3 E 0 6 4
A 3 E 0 6 7

審査請求 未請求 請求項の数5 O.L. (全5頁)

(21)出願番号 特願平11-335518

(22)出願日 平成11年11月26日(1999.11.26)

(71)出願人 000003768
東洋製罐株式会社
東京都千代田区内幸町1丁目3番1号
(72)発明者 松田 尚人
神奈川県横浜市西区戸部町2-206
(72)発明者 高田 淳一
神奈川県横浜市南区中島町4-86
(72)発明者 黒澤 和之
神奈川県横浜市磯子区杉田坪呑11-9
(72)発明者 深堀 穂高
神奈川県横浜市旭区さちが丘25

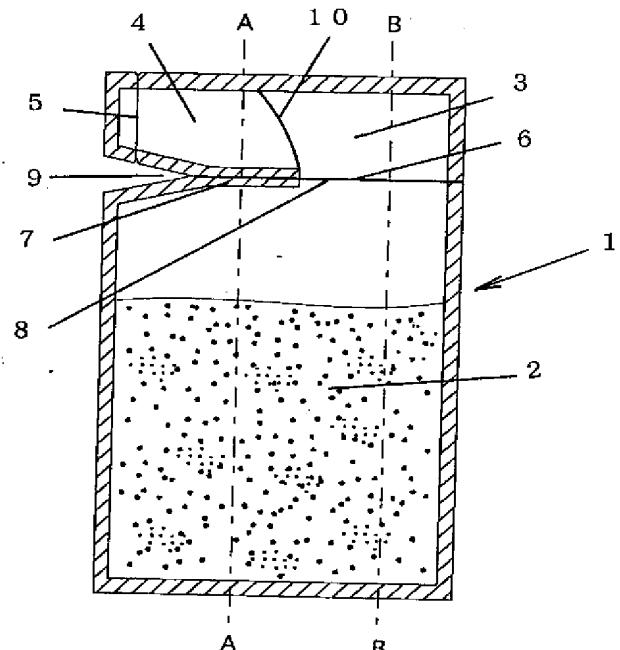
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 計量機能付きパウチ

(57)【要約】

【課題】簡単な操作によって所定量の内容物を精度良く容易に取り出すことができ、計量時、或いは注出時に内容物によって手を汚す恐れがない計量機能付きパウチを提供する。

【解決手段】内容物収容部、計量部及び注出部から成るパウチにおいて、内容物収容部と計量部が連通部を介して連通し、連通部に折り曲げ部が形成されている計量機能付きパウチとする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】内容物収容部、計量部及び注出部から成るパウチにおいて、内容物収容部と計量部が連通部を介して連通し、連通部に折り曲げ部が形成されていることを特徴とする計量機能付きパウチ。

【請求項2】折り曲げ部が印刷による折り曲げ線であることを特徴とする請求項1記載の計量機能付きパウチ。

【請求項3】折り曲げ部がエンボス加工部であることを特徴とする請求項1記載の計量機能付きパウチ。

【請求項4】パウチが積層フィルムから成り、折り曲げ部が外層に形成したミシン目であることを特徴とする請求項1記載の計量機能付きパウチ。

【請求項5】注出口の下方に、その端縁が折り曲げ部と連結する切り欠き部を設けたことを特徴とする請求項1乃至4記載の計量機能付きパウチ。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する分野】本発明は、単層または多層のプラスチックフィルムより成るパウチに関し、特に、パウチ内に収納した粉体、顆粒状等の内容物を計量して、容易に取り出すことができる計量機能付きパウチに関する。

【0002】

【従来技術】従来、洗剤、調味料、食品、化粧品等のパウチとして、単層、または多層のプラスチックフィルムから成る種々の形状、構造を有するパウチが提案されているが、これらのパウチは内容物の計量注出を容易に、且つ確実に行う機能を有するものではない。

【0003】計量機能を有するパウチとしては、パウチのシール面に内容物の注出路を形成し、この注出路を計量槽に接続した特開平7-41017号が提案されているが、このパウチでは内容物の計量時に注出口を手で閉じ、上記内容物を所定量計量槽に送り込んだ後に、計量槽とパウチ本体の接続部を手で押さえ、注出口を開放することによって所定量の内容物を取り出すものである。従って、このパウチでは、内容物の計量性が悪く、また、計量時、或いは注出時に内容物によって手を汚す等の問題があった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記した従来技術の問題点を解消し、簡単な操作によって所定量の内容物を精度良く容易に取り出すことができ、計量時、或いは注出時に内容物によって手を汚す恐れがない計量機能付きパウチを提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】このような目的を達成するため、本発明は下記の構成をとるものである。

1. 内容物収容部、計量部及び注出部から成るパウチにおいて、内容物収容部と計量部が連通部を介して連通し、連通部に折り曲げ部が形成されていることを特徴と

する計量機能付きパウチ。

2. 折り曲げ部が印刷による折り曲げ線であることを特徴とする1記載の計量機能付きパウチ。

3. 折り曲げ部がエンボス加工部であることを特徴とする1記載の計量機能付きパウチ。

4. パウチが積層フィルムから成り、折り曲げ部が外層に形成したミシン目であることを特徴とする1記載の計量機能付きパウチ。

5. 注出口の下方に、その端縁が折り曲げ部と連結する切り欠き部を設けたことを特徴とする1乃至4記載の計量機能付きパウチ。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明のパウチは、単層、または多層のプラスチックフィルムにより構成されるが、使用するプラスチックフィルムとしては特に制限はなく、通常のパウチに用いるものはいずれも使用可能である。また、フィルムは、未延伸、一軸延伸、或いは二軸延伸したフィルムが用いられ、さらに、アルミニウム等の金属箔、紙、セロファン等を貼り合わせて構成することもできる。さらに、本発明のパウチの形態は、スタンディングパウチ、三方、四方シールパウチ、平袋、或いはガセット型パウチ等いずれの形態にも適用可能である。

【0007】以下、図面に基づいて本発明の実施の形態を詳細に説明する。図1乃至図5は、本発明のパウチの第1実施例を示す図で、図1は本発明のパウチの参考図、図2は図1のA-A線における断面図、図3は図1のB-B線における断面図、図4は本発明のパウチの計量時における参考図、図5は本発明のパウチの注出時における参考図である。

30 【0008】このパウチ1は、図1乃至図3に示すように、内容物収納部2、計量部3及び注出部4とから成り、注出部4の一端に注出口5を設けている。内容物収納部2と計量部3は未シール部6により連通されており、内容物収納部2と注出部4はシール部7によって、内容物の通過が遮断されている。そして、上記未シール部6とシール部7に沿って、印刷による折り曲げ線で表示した折り曲げ部8を設けると共に、注出部4の下方に、その端縁が折り曲げ部8と連結する切り欠き部9を設けている。尚、上記計量部3は、内容物の計量を容易にするため、透明、半透明とするのが好ましく、また、上記計量部3、或いは注出部4に計量線10を設けるのが好ましい。

【0009】本実施例のパウチ1を使用して、所定量の内容物、例えば、顆粒状の内容物を取り出す際は、注出部4の注出口5を開封して、図4の状態にパウチ1を内容物が未シール部6を通過するよう倒立、或いは傾け、計量線10で計量を行い、所定量の内容物を確認して計量を行う。次いで、計量後、図5に示すように、計量部3及び注出部4を折り曲げ部8と切り欠き部9から折り曲げた後、所定量の内容物を注出部4の注出口5か

ら取り出す。

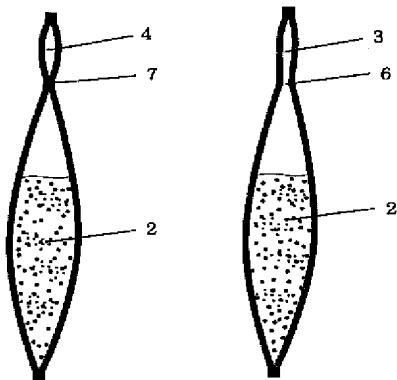
【0010】図6乃至図7は、本発明のパウチの第2実施例を示す図であって、パウチ1の折り曲げ部8をエンボス加工部11としたもので、他の構成は上記第1実施例のパウチと同様である。そして、図6は、パウチの折り曲げ部8をエンボス加工部11とした際の図1におけるA-A断面を、即ち、内容物の注出部4への通過を遮断するシール部7における断面図である。一方、図7は、パウチの折り曲げ部8をエンボス加工部11とした際の図1におけるB-B断面を、即ち、内容物の計量部3への通過が可能な未シール部6における断面図である。本実施例によれば、計量後の所定量の内容物を取り出すための計量部3と注出部4の折り曲げが、折り曲げ部8のエンボス加工部11から、極めて容易に、且つ確実に行うことが可能となる。

【0011】図8乃至図9は、本発明のパウチの第3実施例を示す図であって、パウチ1を多層フィルムで構成し、折り曲げ部8の外層フィルムにミシン目12を設けたもので、他の構成は上記第1実施例と同様である。そして、図8は、パウチの折り曲げ部8を上記ミシン目12とした際の図1におけるA-A断面を、即ち、内容物の注出部4への通過を遮断するシール部7における断面図である。一方、図7は、パウチの折り曲げ部8を上記ミシン目12とした際の図1におけるB-B断面を、即ち、内容物の計量部3への通過が可能な未シール部6における断面図である。本実施例によれば、第2実施例と同様に、計量後の所定量の内容物を取り出すための計量部3と注出部4の折り曲げが、折り曲げ部8のミシン目から極めて容易に、且つ確実に行うことが可能となる。

【0012】尚、上記実施例においては、注出口5を注出部4の側端に設けたが、上方であっても良く、また、開封を容易とするため、Vノッチ、Iノッチ、或いは機械加工、レーザー加工等による易開封加工部を設けても良い。

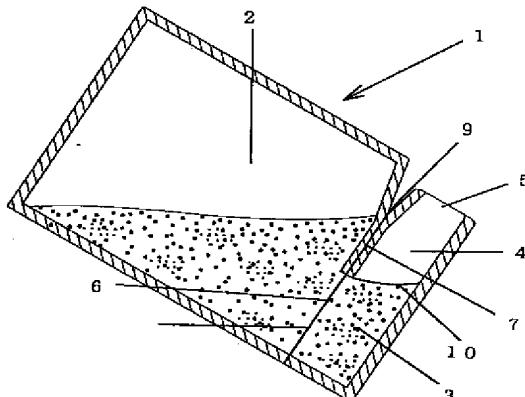
【0013】

【図2】



【図3】

【図4】



【発明の効果】本発明によれば、簡単な操作によって、所定量の内容物を精度良く容易に取り出すことができ、計量時、或いは注出時に内容物によって手を汚す恐れがない。また、折り曲げ部を、エンボス加工による易折り曲げ加工部、或いはミシン目加工で構成することにより、計量後の所定量の内容物を取り出すための計量部と注出部の折り曲げが容易に、且つ確実に行うことが可能となる。さらに、注出口の下方に、その端縁が折り曲げ部と連結する切り欠き部を設けることより、折り曲げ部の存在と相俟って、計量部と注出部の折り曲げが一段と容易に、且つ確実に行うことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明のパウチの第1実施例を示す参考図

【図2】 図1のA-A線における断面図

【図3】 図1のB-B線における断面図

【図4】 本発明のパウチの計量時の参考図

【図5】 本発明のパウチの注出時の参考図

【図6】 本発明のパウチの第2実施例を示す参考図

【図7】 本発明のパウチの第2実施例を示す参考図

【図8】 本発明のパウチの第3実施例を示す参考図

【図9】 本発明のパウチの第3実施例を示す参考図

【符号の説明】

1 パウチ

2 内容物収納部

3 計量部

4 注出部

5 注出口

6 未シール部

7 シール部

8 折り曲げ部

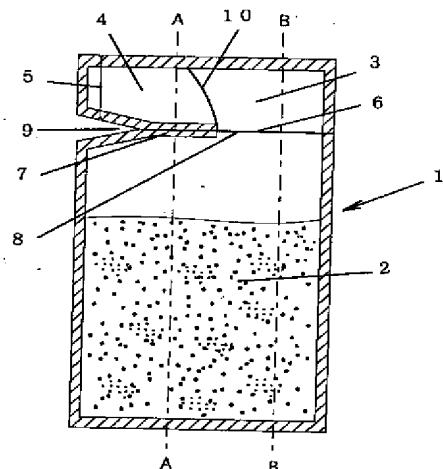
9 切り欠き部

10 計量線

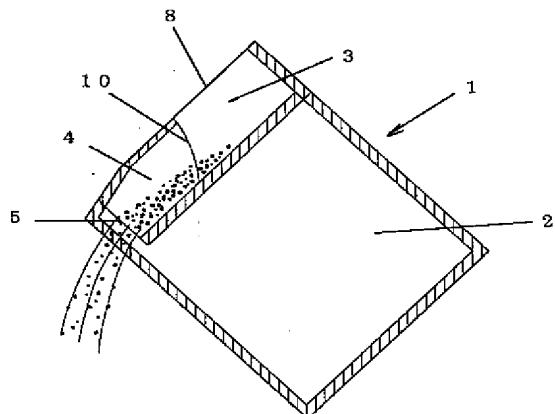
11 エンボス加工部

12 ミシン目

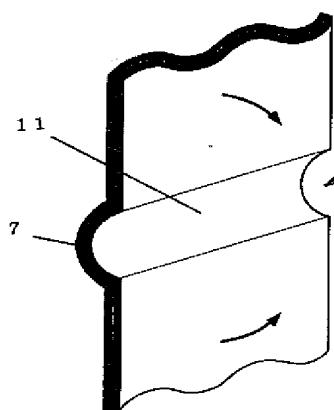
【図1】



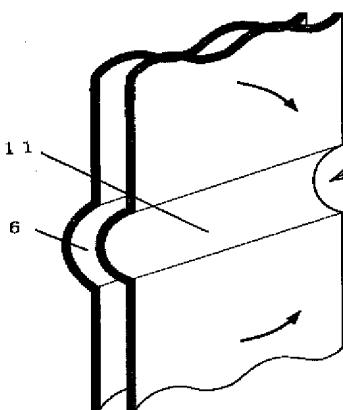
【図5】



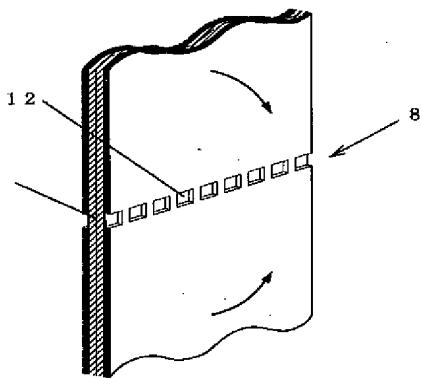
【図6】



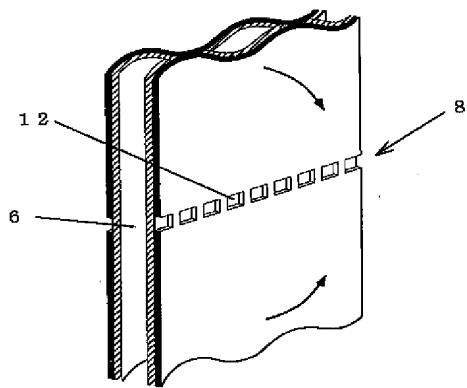
【図7】



【図8】



【図9】



フロントページの続き

F ターム(参考) 3E064 BA22 BC18 FA03 HU10
3E067 AA05 AB01 AB81 AB99 BA12A
BB01A BB12A BB14A BB18A
BB25A EA08 EA09 EB32
EE47

PAT-NO: JP02001151247A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001151247 A
TITLE: POUCH WITH METERING FUNCTION
PUBN-DATE: June 5, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MATSUDA, NAOHITO	N/A
TAKADA, JUNICHI	N/A
KUROSAWA, KAZUYUKI	N/A
FUKAHORI, HODAKA	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TOYO SEIKAN KAISHA LTD	N/A

APPL-NO: JP11335518

APPL-DATE: November 26, 1999

INT-CL (IPC): B65D033/00 , B65D077/30

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pouch with the metering function for easily taking out a given amount of content with good accuracy by a simple operation and eliminating the fear of contaminating hands by the content in metering of pouring.

SOLUTION: A pouch is formed of a content storage section, a metering section and a pouring section, and the content storage section and the metering section communicate with each other through a communicating section, and a folding section is formed on the communicating section.

COPYRIGHT: (C) 2001, JPO